

甲 第 号

下林 幹夫 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

報告番号	甲 第 号	氏 名	下林 幹夫
論文審査担当者	委員長	教授	吉川 公彦
	委員	准教授	朴木 寛弥
	委員	教授	田中 康仁
	(指導教員)		

主論文

Radiographic morphological characteristics of bunionette deformity

(和訳)

内反小趾変形のX線学的形態の特徴

下林 幹夫、田中 康仁、谷口 晃、黒川 紘章、

富和 清訓、東山 一郎

Foot & Ankle International

2015年11月18日 (Epub ahead of print)

論文審査の要旨

内反小趾変形は日常診療において比較的良好に見られる疾患である。しかし、その X 線学的形態の特徴はこれまで第 4・5 中足骨に注目し検証されたものが多く、足部全体の特徴をとらえた詳細な報告はない。本研究は整形外科学教室で考案したマッピング法を用いて足部 X 線像を解析し、内反小趾変形における足部全体の X 線学的形態の特徴をとらえたものである。

マッピング法による足部簡易モデル、各足部パラメーターの計測値をもとに症候性内反小趾群と無症候性の対照群の形態の比較検討を行い、中足骨は各々の基部を支点に骨頭部が扇状に開張していくことを見出し、さらに従来分類にはない新たな形態を見出した。従来言われてきたように、第 5 中足骨の形態が内反小趾変形の一成因であることが確認され、また、第 4・5 中足骨間の開大のみならず、各中足骨間の開大が一成因として新たに明らかにされた。

本研究は内反小趾変形の病態把握の解明と、患者の病態に応じた手術法の選択や新しい手術法の考案に寄与する有意義な研究と評価され、博士(医学)の学位に値すると思われる。

参 考 論 文

1. 肩鎖関節脱臼に対する self lock 法の治療経験
下林幹夫、石本佳之、田中素成、千福健夫、吉井尚
中部日本整形外科災害外科学会雑誌 51(1):45-46,2008.

2. 当院における人工膝関節置換術の治療成績
中野健一、下林幹夫、村上淳一、千福健夫、吉井尚
中部日本整形外科災害外科学会雑誌 51(1):119-120,2008.

3. 橈骨遠位端骨折に対するプレート固定法の治療経験
下林幹夫、千福健夫、田中素成、中野健一、吉井尚
中部日本整形外科災害外科学会雑誌 50(5):959-960,2007.

4. 抗生剤封入ハイドロキシアパタイトによる骨髓炎の治療
倉知彦、伊東勝也、大島学、佐本憲宏、宮内義純、下林幹夫
奈良県立奈良病院医学雑誌 11:65-67,2007.

5. 術後橈骨神経麻痺を来した上腕骨骨折の 3 症例
下林幹夫、宗安昭佳、佐本憲宏、伊東勝也、宮内義純
奈良県立奈良病院医学雑誌 10(1):80-82,2006.

6. 左腸骨に発生した benign fibrous histiocytoma(BFH)の 1 例
倉知彦、花岡義文、佐本憲宏、宗安昭佳、下林幹夫、宮内義純
奈良県立奈良病院医学雑誌 10(1):103-105,2006

7. 高純度 β -リン酸三カルシウム(β -TCP)による良性骨腫瘍の治療
宮内義純、佐本憲宏、宗安昭佳、下林幹夫、荒木成彦、森下亨、
朴木寛弥、城戸顕、高倉義典
別冊整形外科 骨・軟骨移植 47:172-176,2005.
8. 下肢骨折に対する骨補填材としての β -リン酸三カルシウム(β -TCP)人工骨の使用
経験
下林幹夫、佐本憲宏、宗安昭佳、竹村和生、宮内義純
別冊整形外科 骨・軟骨移植 47:186-191,2005.
9. 骨盤原発骨巨細胞種の切除と血管柄無し腓骨移植による骨盤輪再建を行った 1 例
山中佑次、荒木成彦、下林幹夫、宗安昭佳、佐本憲宏、宮内義純
奈良県立奈良病院医学雑誌 9(1):2005.
10. Tile type C3 不安定型骨盤骨折の治療経験
下林 幹夫、稲田 有史、奥地 一夫、高倉 義典
骨折 25 (1) : 401-403, 2003.
11. 外傷に伴う呼吸器合併症の予防と治療 外傷に伴う脂肪塞栓症候群の治療経験
下林 幹夫、稲田 有史
臨床整形外科 38(5):613-617,2003.
12. 長期透析患者に発症した大腿四頭筋腱断裂の2例
下林 幹夫、島岡 宏行、榊田 義英、中井 敏幸
整形外科 53 (5) : 557-560, 2002.

13. 脊椎に発生し神経根症を呈した osteochondroma の 2 例

下林幹夫、植田百合人、松山悦啓、吉川隆章、玉井進

中部日本整形外科災害外科学会雑誌 43:167-168,2000.

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに整形外科学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

平成 28 年 3 月 8 日

学位審査委員長

画像診断学・低侵襲治療学

教授 吉川 公彦

学位審査委員

運動器再建医学

准教授 朴木 寛弥

学位審査委員(指導教員)

運動器再建医学

教授 田中 康仁